



**Q** V連協の活動についてどんなものがあるのですか？

**A** V連協は個人ボランティアやいろいろなボランティア団体をつなぐ役目があるから、交流を主体とした事業や他団体との協力事業、共同事業が主となっている。東日本大震災以降、現在は姉妹都市である宮古市への災害支援(復興支援)に重点を置いて活動をしている。

震災当初は全国各地からボランティアが集まり、様々な活動をしてきたものの時間が経過していくにつれて支援活動が減ってきていると聞く。三年前と比べれば町の状況も落ち着いてきているが、被害の大きかった田老地区や仮設住宅に住んでいる方々は、まだまだ震災が続いているのが実態だ。だからこそV連協の災害支援は出来るだけ長く継続していきたいと思っています。

**Q** ボランティアのはじまりはなんですか？

**A** 高校生ワークキャンプ。夏休みに高校生たちが市内の一人暮らし高齢者の家に宿泊して掃除や障子はりとかお手伝いをするボランティアで、これにスタッフとして参加したのがはじまり。

最初は朝早いし、夜遅くまで会議があったり、仕事じゃないのに責任はあったり大変なことだった。でも終わってみたら、辛かったことよりもやり終えた充実感が強く残り、続けてみようと思った。



ボランティアって投資というか、未来に對する願いみたいなものかな？

芽が出るのか、枯れてしまうのかわからないけどやっぱり種はまかなきゃ！

そう語るのには、黒石市ボランティア連絡協議会(以下V連協)会長 田中昭一さん。今回はV連協会長を長い間務めている田中昭一さんにインタビューをしました。



ボランティア連絡協議会  
会長 田中 昭一さん



**Q** 災害支援ボランティアって3・11から3年以上経っていますが、震災直後に現地に行ったときは、家屋も廃墟になっていて、更地になっているところも津波で泥が堆積して、ボランティアは泥揚げや、廃材撤去など「復旧支援」がメインであった。現在は、電気も通っているし、仮設住まいの人々も徐々にあるが減ってきていて、ニーズも変わってきている。今は被災者の心に寄り添った「復興支援」を目指している。

「仮設住宅に住んでいるもの同士では話せないことも、遠くから来ている人だから話せることもあるんだよ」とか「家族が亡くなつてずっと仮設の部屋に閉じこもっていたけど、みなさんが来ると聞いて参加してみたい。皆さんとお話しできて良かった」とか「言われたときは、私たちのささやかな活動でも誰かの役に立てて、支えになることもあるんじゃないかと思えるようになった。」

**Q** サロン活動を行ってほしいって注意していることはありますか？

**A** サロン活動だけに限ったことではなく、ボランティア活動全般に通じることだけど、こちら側(ボランティアをする側)の思いだけで活動するんじゃないって、現地と話し合い、何を求めているか、それに対して何が出来るかをしっかり考えて活動することが大事なんだと思う。お互いが楽しく過ごせるように長く続くものになるのではないかと考えている。

**Q** ボランティアをしてみたいという人はたくさんいると思うのですが、実際何をすればボランティアなのか？何から始めていいのかわからないと思うのですが。

**A** まずは、アクションを起こしてほしい。どういったボランティアがあるのかわからなくても、黒石市社会福祉協議会(以下社協)に連絡してくれるだけで、そこからはどこに繋げるか、どこで受け止めてくれるのかは、社協が相談にのってくれるはず。

**Q** 最後に、田中会長にとってボランティアとは？

**A** 1991年の台風19号の被害があった時、宮古市で黒石市の落下リンクを大量に購入してくれたと聞いたことがある。それで手を差し伸べてもらった。こちらは何があつた時は手を差し伸べる、そんな当たり前のことなんだと思う。

そして繋がること。ボランティアをしているとたくさんの人と知り合えてネットワークが広がる。

お年寄りにかかわることは、数十年後の自分に返ってくるし、黒石市で大きな災害が起きたときには、今までの活動が自分や街の力になることもあるんじゃないかと思う。

そういう意味では、ボランティアって「未来に対する願い」だったりする。



## 学ぶ防災～後世への教訓を伝える～ 宮古市田老地区



宮古市田老地区の観光協会では、ガイドが「学ぶ防災」について説明を行っています。

東日本大震災の被災現場を見て命を守る防災意識を高めてもらおうと、2012年4月からはじめました。ガイドは自らも被災した方で心に響くものがあります。

津波に襲われたとき、田老観光ホテル6階の客室から記録した報道機関には未公開の映像を見ながら、車や建物など街が瞬く間に大波にのみ込まれていく惨状や、人々の思いなど、情感込めて説明してくださいました。

震災から3年8ヶ月経った今、被災地の現状を伝える情報が減っている中で私たちにできることは、自然災害のおそろしさや防災意識の大切さを忘れずに後世へ伝えていくことなのではないだろうか。



## サロン活動に参加しませんか？

宮古市で復興支援の一環としてサロン活動を行っています。金魚ねぶた・木工細工等を一緒に製作し交流を深めています。

今後も11月8日(土)に予定していますので、興味のある方は参加してみませんか？



※詳しくは黒石市社会福祉協議会  
電話 52-2674 (担当：関)